

ADVANレーシングタイヤインフォメーション

2007年 SUPERGTシリーズ第3戦

2007.5.4

FUJI GT 500km RACE

2007年SUPERGTシリーズ第3戦の舞台は、静岡県・富士スピードウェイ。国内最長のストレートで繰り広げられる壮絶なバトルが観客を大いに沸かせる一方で、05年の大改修後はコース後半にテクニカルセクションが設けられたことから、以前ほどセッティングがストレート重視ではなくなった。それでもアベレージとしては他のサーキットを上回り、タイヤにより高次元の仕事を課することでも知られている。首都圏と中部圏の中間に位置することから、もとより高い集客率を誇るが、今回はゴールデンウィーク中の開催とあって、スタンドに大観衆をおさめることは確実である。

岡山国際サーキットで行われたシリーズ第2戦でGT500クラスは、WOODONE ADVAN Clarion Zこそ15位に甘んじたものの、ECLIPSE ADVAN SC430は予選11番手から激しい追い上げを見せ、6位でフィニッシュ。一方、GT300クラスは、連勝こそ潰えたものの、プリヴェKENZOアセット・紫電がポールポジションを獲得し、決勝では2位に。また、3位はコンケルパワー タイサン ポルシェが獲得。まったく個性の異なる車両が上位につけたことは開発の方向が正しかったことを示した。

第2戦では前述のとおり、ECLIPSE ADVAN SC430に関しては投入した構造、ゴムともに狙いどおりピタリとはまったことから、決勝において好結果を得ることができた。そこで今回のレースには過去2戦のデータを生かしつつ、3月に富士で行われた公式テスト、さらにSUGOで行われた3メーカー合同テストで試され、好感触を得られた新構造が採用されることに。これは従来の構造より、さらにコーナリングで力を発揮できるよう製作されている。第2戦やテストにおいて、高速コーナーではすでに他メーカーに勝るとも劣らぬことが確認されており、後半のテクニカル区間、



セクター3でもタイムの短縮に期待がかかる。なお、WOODONE ADVAN Clarion Zは今回から07モデルに改められることになっているが、車両そのもののポテンシャルアップは他車で確認済とあって、好レースが期待できる。また、GT300クラスに関しては、開幕戦を制したエンドレスアドバン洗剤革命Zに続き、第2戦で2位のプリヴェKENZOアセット・紫電も、ソフトタイプで予想以上の好結果を得ることができた。そこで今回は5月の気候を考慮し、同じソフトタイプでも従来よりも温度レンジを上げたタイヤを投入する。

レースウィークに持ち込まれるGT500クラス用のドライタイヤはSC430、Zとともに構造1種類、コンパウンド2種類。路面温度が20℃以下ならミディアムソフト、20℃以上ならミディアムが推奨となる。レインタイヤは構造1種類、コンパウンド2種類。GT300クラスについても構造1種類、コンパウンド2種類。なお、今回は500kmレースということもあり、GT300クラスでは2ストップ、1ストップとも作戦は有効であり、どちらにも対応できることは富士・公式テストで確認された。今回はレースの長さを配慮し、普段のレースより多い、合計で約1700本のADVANレーシングタイヤが用意される。

2007年 SUPERGTシリーズ第2戦用ADVANTイヤラインアップ

		GT500	GT300
ドライ用スリック	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (MS, M)	2種類 (S, M)
	サイズ	330/710R18、330/710R17	250/650R18、280/680R18、280/710R18
ウエット用レイン	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (S, M)	2種類 (MS, M)
	サイズ	330/710R18	250/650R18、280/680R18、280/710R18

2007年 SUPER GTシリーズ第2戦 OKAYAMA GT 300km RACE レースレポート



4月7日(土)～8日(日)、岡山県・岡山国際サーキットで2007年SUPER GTシリーズ第2戦が開催された。予選ではコンマ01秒差で11番手と、あと一步のところまでスーパーラップ進出を逃したECLIPSE ADVAN SC430であったが、決勝ではスタート直後の波乱を難なく回避した後、トップグループにも匹敵するラップタイムを刻み続けて走りで追いついていく。ピットストップが比較的遅めであったことから、織戸学選手は暫定トップで土屋武士選手に交代。再びコースに戻った時の5番手からひとつ順位を落としたが、ポールポジションを獲得したNSXの猛攻を受けながら、6位でのゴールに成功した。一方、WOODONE ADVAN Clarion Zは苦戦を強いられ、予選は16番手。開幕戦をアクシデントによってリタイアしているだけに、ここは完走第一と目標を切り替えて、15位でゴールしている。

一方、GT300クラスでは、開幕戦を制したエンドレスアドバン洗剤革命Zが40kgものウエイトを積みながら、予選1回目

ではトップ。これを筆頭にスーパーラップには、7台のADVANユーザーが進出した。しかし、エンドレスアドバン洗剤革命Zは、最終ランナーだったため、その時すでに路面温度は下がっており、5番手につけるのがやっと。逆に予選1回目の5番手から大躍進を遂げたのが、プリヴェKENZOアセット・紫電。加藤寛規選手は「自分の中では納得のいかないアタック」と語るも、ポールポジションを獲得する。決勝でも加藤選手がレースをリード、高橋一穂選手に代わった後、ひとつ順位を落としてこそしたが、2位でゴール。また、このレースでの見せ場は、ユンケルパワー タイサンポルシェの激しい追い上げであった。予選9番手から決勝では着実に順位を上げ、最後にガス欠症状が出なければ2位にもなったかも、と思わせる力走を見せた。なお、エンドレスアドバン洗剤革命Zはバトル中の接触に対し、ドライビングスルーペナルティの判定が下されたことが響き、7位でゴールするのがやっとだった。なお、このレースのトップ10のうち6台はADVANユーザーであった。

GT300ルーキーにインタビュー



© GTA

おりめ・りょう

1982年6月26日生まれ、京都府出身。98年からカートを始め、翌年には琵琶湖選手権でチャンピオン。2000年にSRS-Fを受講し、スカラシップで01年はFDリムを戦う。その後、いったんカートレースに戻るも、04年にはFDリム、05年にはF3に参戦。この年はスポット参戦のアジアフルノーで優勝、昨年はFニッポンに出場していた。

折目 遼 / RE雨宮レーシング

注目のルーキーを紹介するこのコーナー、第2回は昨年のチャンピオンチーム、RE雨宮レーシングから大抜擢を受けた折目遼選手を取り上げることとしました。これまでフォーミュラ一筋にレース活動が続けてきた折目選手、当然GTカーを走らせるのは今年が初めて。しかし、開幕直前のテストで雨宮勇美監督を唸らせ、実力でシートを獲得したのですから、おのずと期待が高まるというものです！

—GTの走らせ方には慣れましたか、やはりフォーミュラとはかなり違うのでは？

折目「クルマの動きに関してはフォーミュラの方がシビアで、GTはロールをすごく感じます。少し戸惑っているのは、そのロールをさせた上で、どうグリップに生かすか！

—それを克服するためには？

折目「僕の経験が少ないことは、チームが理解してくれているので、たぶん他のチームのBDライバーより多く走らせてもらっています。井入さんのアドバイスも的確なので、あとちょっと時間は必要かもしれませんが、何とかかなりそうな気はします(笑)」

—チャンピオンカーを走らせているということに関しては？

折目「まず、ここまで2戦を終えて、まだ表彰台に上がれていない悔しさ。セブン、チーム、そして井入さんのポテンシャルが高いことが分かったんで、よけいに。それと応援してくれるファンの方がすごく多くて。早く結果を残して……という思いが肌で感じられるんですが、それをいい意味でのプレッシャーにしていこうと思っています」

—最後に、GTに対する手応えは？

折目「アタックとかはまだ僕の仕事じゃないので分かりませんが、ロングに関しては鈴鹿、岡山ともそこそこいい感じになってきたと思います。本当にいい材料の揃っているチームなので、僕も努力してレベルを上げて、チャンピオン防衛に貢献したいですね！」

